

景行天皇四十年、日本武尊は初めて駿河(静岡県)に到着しました。土地の長が尊に従ったおりをして狩り誘いました。「ここは広い野原です。ここには鹿がたぐさんいて、吐く息が朝露のようで、しかもその足は林の茂みの隙にしろやかです。さあ狩りを楽しみましょう。」

日本武尊はこの者の言うことを信じ、野の中に入って行きました。長らは日本武尊の入った野に火をのけて焼きました。日本武尊はだまされたことに気づき、すぐに持っていた火打ち石で火をつけ、迎え火をつくることで難を免れることができました。

焼津神社 静岡県焼津市焼津

景行天皇四十年十月に都を出発した日本武尊軍は尾張国を経てその年の内に駿河に到着しています。この間、尾張で東征の準備をし、三河では小さな戦いをしながら山間部を抜け、浜名湖南端に到着しました。そして、全軍の態勢を整えて駿河に向け再出発します。

浜名湖岸 吉美

三河山間部から湯の山を経由して浜名湖沿いに南下した日本武尊は、現在の湖西市で陸路と海路を進んできた全軍を集合せました。ここで軍を休ませ、駿河に向かう準備をしました。

熱田神社 静岡県湖西市吉美

日本武尊を主祭神として祀っています。ここは浜名湖の西側の南端に位置しています。地名の吉美は吉備がもたくなっています。従者の吉備武彦が東征後にこの地を治めたことにより、熱田神社の西北に地元の人たちが「かめえ」と呼ぶところがあります。昔そこには清水が絶えることなく湧き出す井戸がありました。日本武尊がこの地に来た時、大変のどが渇いていました。どこかに水はないかと探しましたが、いかと探しましたが、見つかりません。そこで、腰の剣を手に持ち、地面に突き刺したところ、そこから水が湧き出てきました。その水でのどを潤し、



熱田神社 静岡県湖西市



神井戸神社 静岡県湖西市

『続々遠州伝説集』

再び東に向かって歩き始めました。日本武尊が去った後も水は出続けました。日照り続きの時にここで雨こいをすると雨が降ったと言われています。

金山神社 静岡県浜松市西区雄踏町

製鉄の神金山神や日本武尊らを祀っています。ここは浜名湖の東側、やや高い所に位置します。地名の雄踏は日本武尊がこれから進軍する東の方を見て足を雄々しく踏みならしたことからついたとされています。

白羽神社 静岡県磐田市白羽

日本武尊を祭神として祀っています。ここから焼津まで伝承地が見つかりません。そのため本隊はこの地から出航し、御前崎を左に見て次の上陸地に向かったと思われる。

敬満大井神社 静岡県榛原郡川根本町

駿河に入る前、山間部に賊がいるという情報が入り、先にその征伐に向かったようです。観光SLの終点千頭駅の近くに日本武尊の足跡がありました。一行は川を利用して大井川を往復したのではないかと考えます。



敬満大井神社 静岡県川根本町

駿河上陸



焼津神社 静岡県焼津市

当時日本武尊が上陸した辺りは海に面して広大な沼地があったと**焼津神社**の社伝に書かれています。焼津神社は入り江明神とも呼ばれ、付近は沼に面して背の高い萱や葦があり、それらが一面に茂っていたところと言われています。

浜名湖から海路で駿河に入った日本武尊は焼津の北の御旅所付近に上陸しました。ここで出迎えた首長たちは長旅の疲れを癒すよう勧めます。しばらく休憩していると皆で狩りに出かけようと誘われました。狩り場に着き、背丈以上に伸びた葦原を奥に進んでいると首長らの姿が見えなくなっていました。辺りを見回すと炎が迫ってくるのが見えました。日本武尊は騙されてしまったのです。葦原の奥に誘い込んだのは国造で、葦に火を放って焼き殺そうとしました。日本武尊は伊勢の倭姫命から授かった火打石で迎え火を付けると、運よく難を逃れることができました。



北御旅所 静岡県焼津市

『日本書紀』には別説として、天叢雲剣がひとりでに抜けて草を薙ぎ払ったと書かれています。これは後に天叢雲



建部神社 滋賀県五個荘

剣が草薙剣と名付けられた所以ともなっています。『古事記』は火難に遭った場所は焼津神社のある駿河のことではなく、もっと東方の相武

(相模)としています。相武は駿河の東に位置するため、火難の地が相武とするなら、焼津は火難の地ではありません。しかし、この出来事があった時代には「駿河」という国名・地名がなく、静岡県東部と神奈川県東部は広く相武と呼ばれていたとされています。すると当時の焼津も相武に属することになります。『日本書紀』が編纂された時代には相武と駿河は区別されるようになっており、駿河としたのかもしれない。



草薙神社 静岡県静岡市

静岡県静岡市清水区草薙にある**草薙神社**の祭神は日本武尊です。日本武尊が東征に向かう途中、賊が野に火をつけて日本武尊を焼き殺そう

としたので、尊は倭姫命より授かった剣を抜いて「遠かたや、しげきかもと、をやり鎌の」と鎌で打ち払うようなしぐさで剣を振り、草を薙ぎ払って難を逃れたと伝わっています。このときの

剣が草薙剣と呼ばれています。後に景行天皇がこの地を訪れ、尊を偲んで社を建立しました。そして、日本武尊を祀り、御霊代として草薙剣を奉納しました。その後、天武天皇の時代に草薙の剣は熱田神宮で祀られるようになりました。草薙神社は元は静岡鉄道の草薙駅の南にありましたが(現在は古宮があり、一帯は天皇原と呼んでいた)が平安時代に現在地に遷座されています。



首塚稲荷神社 静岡県静岡市

騙されたことがわかった日本武尊の怒りは相当なものでした。騙した賊を草薙神社付近まで追ってきて征伐しました。賊一族の首は土に埋め

た。その伝承があるのが草薙神社の北に位置する**首塚稲荷神社**です。静岡市清水区にある**久佐奈岐神社**の祭神は日本武尊です。東征に同行した弟橘姫命、吉備武彦命、大伴武日連命、膳夫七搦胸脛命らも祀られています。また、東征に従った多くの従者を九万八千霊社に祀っています。火難の地伝承がこ



久佐奈岐神社 静岡県静岡市

こにもあります。神社がある地区は当時廬原国と呼ばれていました。日本武尊は東征のおりにここに本宮を設けました。東征後に従者の一人吉

備武彦がこの地を治めることとなり、日本武尊を祀る社殿を築きました。もとは「東久佐奈岐神社」と呼んでいました。



小野神社 神奈川県厚木市

神奈川厚木市にここが野火の難の地であるとする**小野神社**があります。ここを野火の難の地とするのは、荒れた走水の海で身を投じる前の弟橘姫の歌が根拠となっています。入水する際、弟橘姫は「さねさし さがむ(相武=相模)のおの(小野)にもゆるひのほなか(火中)にたちて とひしきみはも」と歌を詠んだとされています。この「小野」は小野神社のある地名と言われています。

神奈川相模原市の**大沼神社**にも火難の地の伝承があります。ここはかつて沼地・原野が広がっていました。神社の境内にある立派な石碑には「大沼は遠く日本武尊東征の砌り火難に相遇されし地」と書かれています。

異説 焼津は天然ガス産出地

焼津地区には現在も天然ガスが産出するところが数か所あります。古代、このガスに火が付くことで野が焼けているように見えたので、「焼津」の地名になったという説もあります。静岡県焼津市では地下から湧き出す温泉とともにガスの採取を行っています。

